

「暑さ寒さも彼岸まで」と云われるように、ここのところ、秋の虫の音が賑やかになり、だいぶ、楽な陽気になりました。

が、しばらくすると、農家の方々は農作業で一層多忙を極めます。

■ 多忙直前、本職の田畠の一部を紹介します。



今年、神奈川県に被害をもたらす台風は未だありません。

朝の水田、実り豊かな様子をご覧ください。丹精をこめた稲穂がたわわに育っています。

夏場に、一時、水田への水を止め、実りを待ちましたが、現在は、水を入れ、収穫への最終段階にさしかかっています。

稲穂が一面です。農道を渡る涼風を受け、毎朝、散歩する方々を見かけます。



ご覧いただくと、一面の水田に段差を見つけられると思います。西の方角を見ています。右の写真の遠くに、箱根の外輪山、矢倉岳・麓近くの足柄峠もこの方角です。

農道わきの水田に段差(緑色の濃い所)があり、奥に行くほど、高くなっていることがお解りと思います。

寺田縄を含めた金田地区の地形が西へ行く程、高度が増しています。西側の「北金目台地」(真田与一の真田城などがあつた高まりの台地)の下から、水田を中心とする広大な農業地帯が続きます。農業用水は、西から東へ流れ、多くは鈴川に流れます。

昔、この付近には「金目川」が流れていた痕跡があり、今日、広がる水田地帯は、金目川の水をフルに活用して発達してきました。



「サトイモ」の大集団です。この畑、昨年は水田でした。畑作と隔年で耕作しています。来年は水田に代わると思います。

よく生育しています。小学校の低学年の児童なら、姿が隠れるほどです。

「サトイモ」は十分な水分を必要とする作物で、水田後の営農が適作と思われます。菜園経営者のわれわれには、とても、お呼びではありません。



列をなす「オクラ」です。付けた花、2～3日後には収穫できる大きさに育ち、収穫できます。

出荷するのでしょうか、少々の雨でも、毎朝摘み取りに来ています。が、農業後継者の問題、農作業に従事する方々にとって、切実な問題です。

われわれは、趣味としての菜園です。

遠くには「大山」です。



「長ネギ」です。

畝の間を広く取り、深く掘られています。長ネギは、白い部分を調理します。

作物で「白」は日光に当たらないことで出来ます。「もやし」が典型です。日光に当たることで植物本来の姿になります。緑が増します。

「長ネギの白」は、ネギに土を寄せ、太陽光を遮ることで、できます。

十分な土を寄せるために、ネギとネギの間、畝の間を広く取ることが栽培の秘訣です。

このことが菜園では悩みです。あまり広くない菜園でネギのために、ゆとりは取れません。土寄せは、スコップで土を運んで仕上げることになりがちです。

■ 菜園の管理

□ 「ダイコン」の「芽カキ」(ぬき菜、間引き)




以前紹介した、双葉の出そろったダイコンです。

種を複数播くので一か所にまとまって発芽します。このまま育つと、「ダイコン」はひしめき合い、うまく育ちません。その上、「ダイコン」は移植もできません。

そこで、確りした芽を一、二本残しぬき取り「おひたし」や「みそ汁の具」にします。(新鮮で、それは、それは美味しいです) 「芽カキ」とか「間引き」と云います。

初めて菜園を営んだとき、この「芽カキ」とか「間引き」がなかなかできませんでした。せっかくの若芽を摘み取ることが痛みでした。でも実行せねば「ダイコン」になりません。勇気を出します。除かれた若芽を放置するのでなく、食べることで、心の均衡を保ちます。「ジャガイモ」も同様です。大きな実にするため、「芽カキ」をします。

「ダイコン」と違い、抜いた若芽は食べられません。チッヨと複雑な気持ちです。

 ぎざぎざの本葉になりました。大きな葉が隣り合わせで狭苦しく見えますが、最終的には一本とし、太く大きな「ダイコン」に育てます。

葉の間隔、大きくなったら狭すぎるかな ? また、報告しますが、狭い菜園の悩ましい所です。

□ 菜園への闖入者（ちんにゅうしゃ）



「チンゲンサイ」の双葉です。一列に種をまきました。これでは込み合っています。種が小さく、指で播くと、どうしても、まとまってしまい、このような発芽になってしまいます。売られている形に育てるには、何度か「間引き」をします。

見て頂きたいのは、若芽を盛り上げ、割れ目の入った土の表面です。スワ、「液状化」ではありません。「モグラ」の仕業のようです。

下の写真は「タマネギ」の苗。種から育てています。ここも「モグラ」の被害です。

「モグラ」は地中のミミズを追い、トンネルを掘り進みます。表面から浅い所では「ミミズ腫」のような跡になります。時にはこんもりと盛り上がった土のドームも残します。



困ったことに、菜園のいたる所、苗にはお構いなしに掘り進み、このような状態になります。

「ミミズ」の居る畑（地中の生き物）は「土がいい」と聞かされますが、「モグラ」とは、迷惑です。

「風車の支柱を立てると良い」とも云われますが、特に対処はせず、「ミミズ腫」の土を踏みつけています。

若芽の根は浅く、「モグラのトンネル」ができると根には不都合です。枯れてしまうこともあります。踏みつけることはできず、ソット手で優しく抑え込みます。



ニラの花。

ゴーヤ・白ゴーヤ、ズッキーニ（今年最後の収穫です）、オクラ二本